

『なぜ孫悟空のあたまには

輪っかがあるのか?』(2013年)

中野 美代子/著 岩波書店

マンガやドラマで多くの日本人が一度は目にしたことのある西遊記。その物語には実はいろんな謎が隠されていたのです。三蔵法師のお供は虎だった!? 河童もサルも同じ生き物!? 摩訶不思議な西遊記の世界を読み解いてみませんか? 平易な言葉で書かれており、1章が短いのでスラスラ読むことができ、普段小説しか読まないという方にもオススメです。



『絵本西遊記』(1997年)

太田 大八/画 呉 承恩/作 周 鋭/編
中 由美子/訳 童心社

『西遊記』は唐の時代の僧玄奘(三蔵)がインドに経を求めて旅をした記録『大唐西域記』をもとにしています。三蔵法師が孫悟空、猪八戒、沙悟浄を連れて、苦難を乗り越えながら旅をするとても長いおはなしです。太田大八の絵で素敵な絵本になりました。興味を持たれたら、小説でも楽しんでください。



『アッホ夫婦』(2005年)

ロアルド・ダール/著 クエンティン・ブレイク/画
柳瀬 尚紀/訳 評論社

とんでもなく不潔なアッホ氏と、とんでもなくブサイクなアッホ夫人。二人は見た目だけでなく、その性格もとんでもないものでした。夫婦はおたがいに、いたずらではすまないとんでもない意地悪の数々をしかけます。おもしろいけどちょっぴりこわい、シニカルコメディ。終盤ではサルが大活躍!? はてさて、いじわる夫婦のむかえる結末は…?

『ぐるぐる猿と歌う鳥』(2007年)

加納 朋子/著 講談社

五年生の森は、東京から北九州の社宅に越してきました。ある日、体育館の屋根から社宅の方を見ると社宅の屋根をキャンバスにとてつもなく大きな猿の絵が描かれているのを発見しました。森は近所に住む同学年のココちゃん、美少女あや、竹本家の5兄弟とすぐ友達になり真相をさぐります。また、パックという不思議な少年とも出会います。パックとの関わりを通して、それぞれ心の傷と向き合いながら成長していく姿が書かれており、確かな「生」を感じさせてくれる1冊です。

『贈る物語 Terror
みんな怖い話が大好き』(2006年)

宮部 みゆき/編 光文社

ある寒い夜、レイクスナム荘に住む家族に、客が訪れた。客は家族に『猿の手』の話を語って聞かせる。願いを三つかなえるという猿の手を、客は忌々しそうに話し、家族は半信半疑で聞いていた。客が置いて行ったその猿の手に、家族は二百ポンド欲しいと願うと一。

『猿の手』ほか、有名ホラーがたくさん詰まった楽しい一冊です。

『SOSの猿』(2009年)

伊坂 幸太郎/著 中央公論新社

遠藤二郎は困っている人を助けなければいけない、と反射的に思ってしまう性格の持ち主です。正義感からではなく、見て見ぬふりをしたことを後になってくよくよ悩み、罪悪感にさいなまれるのが嫌なのです。そんな二郎に、ひきこもりの息子を助けてほしい、と相談がありました。息子と面談してみますと、息子の口から「俺は孫悟空だ」という言葉が飛び出るのでした。

